

資料編

1. 用語解説

アウトリーチ：

自発的に援助を求めてこない利用者に対するアプローチの方法で、専門職員などが地域に積極的に出て利用者と対面し潜在的なニーズを表に出せるよう援助していくこと。

SDGs：

Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成されています。

社会を明るくする運動：

すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動。

生活支援サポーター：

高齢者の困りごとである簡易な家事支援や、住民主体の通いの場の運営等を行うボランティア。

ダブルケア：

育児と親の介護を同時に担うこと。

認知症サポーター：

認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域で、認知症の人や家族に対してできる範囲で手助けをする人のこと。

認認介護：

老老介護の中でも、認知症の要介護者を認知症の介護者が介護している状態のこと。

8050問題：

80歳代の親と働いていない独身の50歳代の子が同居している世帯であり、ひきこもりの長期化・高齢化と親の高齢化につれて深刻な困窮に陥る可能性が指摘されている。

バリアフリー：

高齢者や障がいのある人などの自立した日常生活や社会生活の障壁となるものを取り除くこと。

ヤングケアラー：

本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話等を日常的に行っている子どものこと。

ユニバーサルデザイン：

「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障がいの有無に関わらず、最初からできるだけ多くの人利用可能であるように施設などをデザインすること。

老老介護：

65歳以上の高齢者を同じく65歳以上の高齢者が介護している状態のこと。

2. 串間市地域福祉計画策定委員会設置条例

平成24年 3月30日串間市条例第11号

(目的)

第1条 社会福祉法(昭和26年法律第45号)第107条に規定する地域福祉計画(以下「地域福祉計画」という。)の策定に関する事項を検討するため、串間市地域福祉計画策定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- (1) 地域福祉計画の策定に係る調査及び研究に関する事項
- (2) 地域福祉計画の策定に関し市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、地域福祉に関して学識経験を有する者、地域福祉に携わる者その他市長が適当と認める者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

(任期)

第4条 委員の任期は、地域福祉計画が策定されるまでとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、それぞれ委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員長は、出席委員の同意を得て、必要と認める者を会議に出席させ、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、福祉事務所において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月25日条例第5号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成25年4月1日から施行する。

3. 串間市地域福祉計画策定委員会委員名簿

	所 属	役 職	氏 名
1	串間市社会福祉協議会	会長	武田 憲昭
2	串間市民生委員児童委員協議会	会長	立本 伊佐男
3	串間市自治会連合会	会長	河野 宰
4	串間市介護支援専門員連絡会	理事	豊島 正子
5	串間市さんさんクラブ連合会	女性部長	森本 明子
6	串間市障がい者自立支援協議会	代表	富田 郵子
7	日南串間肢体不自由児・者父母の会	会長	松田 佳代
8	串間市保育会	代表	笹葉 沙弥
9	串間市保護司会	副会長	河野 至
10	串間市福祉事務所	所長	川野 寿春

4. 市民アンケート報告書

目次

I アンケート調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査概要	1
3 報告書の見方	1
II アンケート調査結果	2
1 回答者について	2
2 「地域」との関係について	9
3 「福祉」について	17
4 お城活動について	26
5 地域福祉に関わる役割や団体について	32
6 福祉に関連する取り組みについて	36
7 災害時の避難について	40
8 孤立・孤立について	44
9 普段の交通手段について	49
10 福祉に関する相談窓口について	52
11 今後の地域福祉のあり方について	66
12 串間市の現状について	68

串間市 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に 関するアンケート調査 結果報告書

令和6年3月
串間市

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3期戸習市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定にあたり、市民の皆様のご意見やご提言を広くお聞きし、計画策定に反映することを目的に実施しました。

2 調査概要

項目	調査概要
調査対象者	市内在住の16歳以上の方（無作為抽出）
調査期間	令和6年1月22日（月）～2月7日（水）
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式、WEB回答方式
配布数	2,000件
有効回収数	734件
有効回収率	36.7%

3 報告書の見方

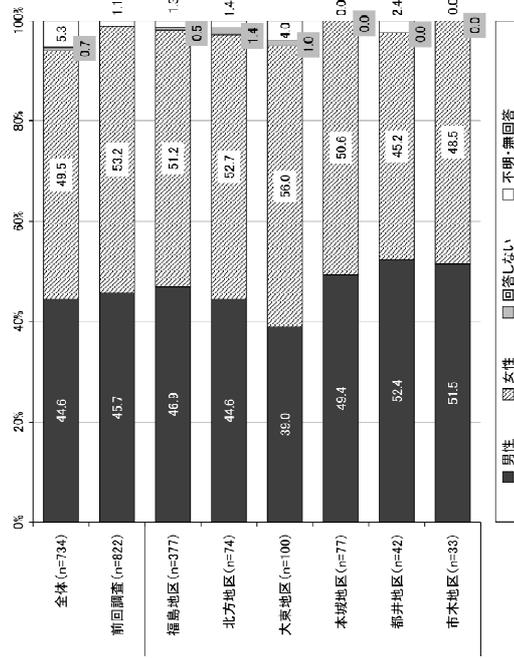
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位まで四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者数（n値）が少ない（10件未満）クロス集計について、コメント対象外としています。

II アンケート調査結果

1 回答者について

問1 性別を教えてください。（いずれか1つに○）

性別についてみると、「男性」が44.6%、「女性」が49.5%、「回答しない」が0.7%となっています。地区別に見ると、「都井地区」（市本地区）では「男性」が最も高くなっています。



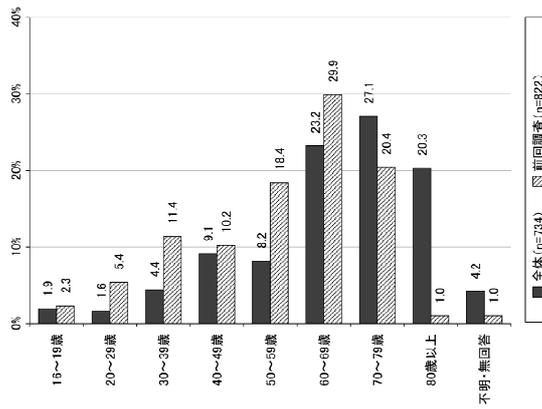
※「回答しない」は今回調査のみの選択肢。

問2 年齢を教えてください。(いずれか1つに○)

年齢についてみると、「70～79歳」が27.1%と最も高く、次いで「60～69歳」が23.2%、「80歳以上」が20.3%となっています。

前回と比較すると、「80歳以上」が19.3ポイント増加しています。

地区別に見ると、「福島地区」(市木地区)では「70～79歳」、「北方地区」(大東地区)では「60～69歳」、「本城地区」(郡井地区)では「80歳以上」が最も高くなっています。



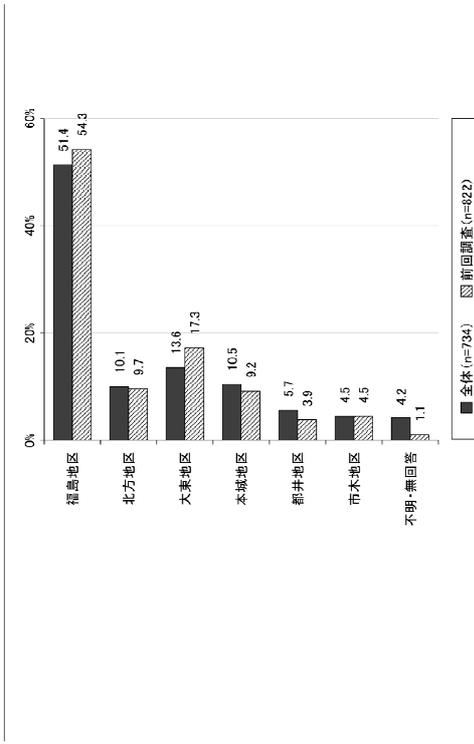
<地区別>

地区	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	不明・無回答
福島地区 (n=377)	2.1	1.9	6.1	12.2	10.1	22.3	29.7	15.4	0.3
北方地区 (n=74)	1.4	0.0	2.7	10.8	9.5	32.4	23.0	20.3	0.0
大東地区 (n=100)	1.0	1.0	4.0	6.0	4.0	32.0	25.0	27.0	0.0
本城地区 (n=77)	3.9	3.9	1.3	5.2	9.1	15.6	27.3	33.8	0.0
郡井地区 (n=42)	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0	28.6	26.6	33.3	4.8
市木地区 (n=33)	0.0	3.0	6.1	3.0	9.1	15.2	36.4	27.3	0.0

問3 住んでいる地区を教えてください。(いずれか1つに○)

居住地区についてみると、「福島地区」が51.4%と最も高く、次いで「大東地区」が13.6%、「本城地区」が10.5%となっています。

前回と比較すると、大きな差はみられません。

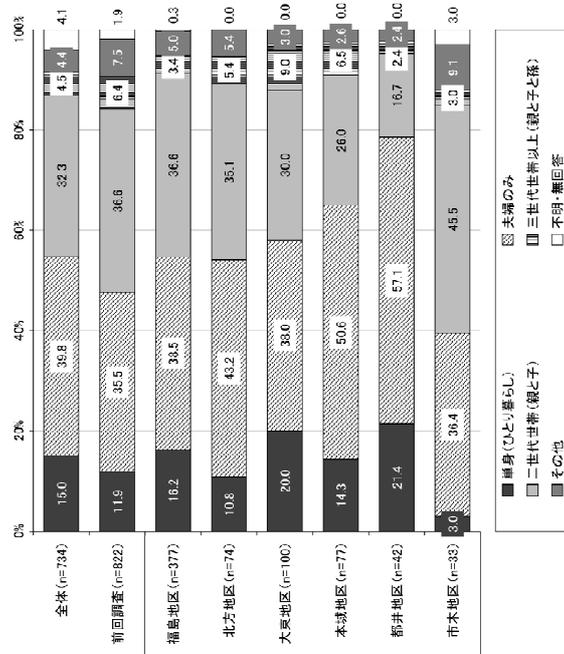


問4 家族構成を教えてください。(いずれか1つに○)

家族構成についてみると、「夫婦のみ」が39.8%と最も高く、次いで「二世帯世帯(親と子)」が32.3%、「単身(ひとり暮らし)」が15.0%となっています。

前回と比較すると、大きな差はみられません。

地区別に見ると、「市木地区」では「二世帯世帯(親と子)」,その他の区分では「夫婦のみ」が最も高くなっています。

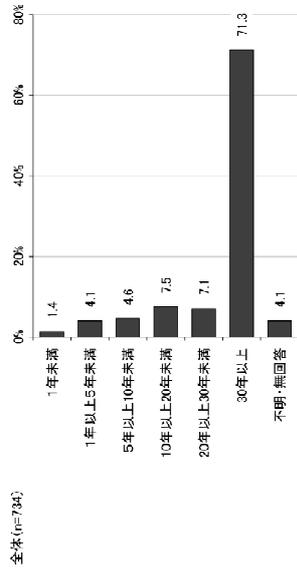


※前回調査:「ひとり暮らし」「親と子ども(二世帯世帯)」「親と子どもと孫(三世帯世帯)」

問5 あなたは串間市に住んでどれくらいになりますか。(いずれか1つに○)

居住年数についてみると、「30年以上」が71.3%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が7.5%、「20年以上30年未満」が7.1%となっています。

地区別に見ると、すべての区分で「30年以上」が最も高くなっています。



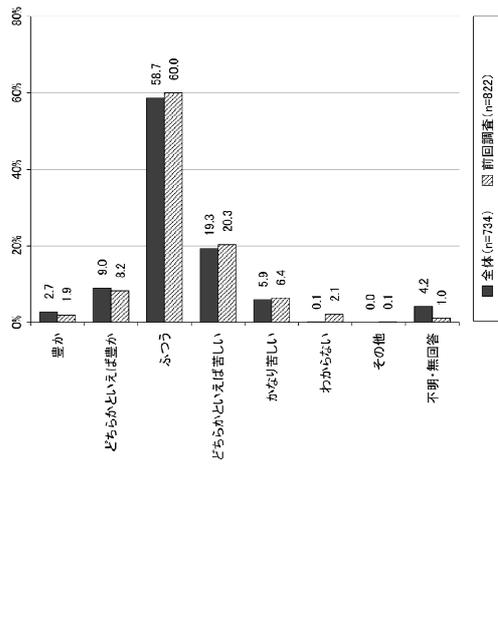
<地区別>

地区	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	不明・無回答
福島地区 (n=377)	1.6	5.3	5.0	10.1	9.0	68.2	0.3
北方地区 (n=74)	2.7	4.1	2.7	5.4	8.8	78.4	0.0
大宮地区 (n=100)	0.0	3.0	3.0	3.0	8.0	85.0	0.0
本城地区 (n=77)	2.6	1.3	6.5	9.1	6.5	74.0	0.0
都井地区 (n=42)	0.0	0.0	2.4	2.4	2.4	90.5	2.4
市木地区 (n=33)	0.0	0.0	12.1	6.1	3.0	78.9	0.0

問6 あなたの世帯の現在の暮らし向き(経済的な状況)を教えてください。(いずれか1つに○)

世帯の現在の暮らし向き(経済的な状況)についてみると、「ふつう」が58.7%と最も高く、次いで「どちらかといえば苦しい」が19.3%、「どちらかといえば豊か」が9.0%となっています。前回と比較すると、大きな差はみられません。

地区別に見ると、すべての区分で「ふつう」が最も高くなっています。



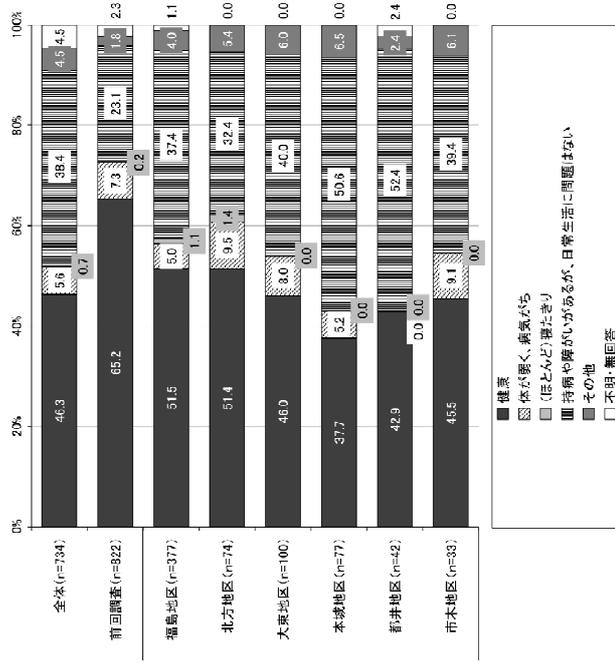
<地区別>

	豊か	どちらか といえば 豊か	ふつう	どちらか といえば 苦しい	かなり 苦しい	わから ない	その他	不明・ 無回 答
福島地区(n=377)	2.4	9.5	63.7	19.9	3.7	0.3	0.0	0.5
北方地区(n=74)	2.7	12.2	58.1	17.6	9.5	0.0	0.0	0.0
大東地区(n=100)	5.0	8.0	52.0	29.0	6.0	0.0	0.0	0.0
本城地区(n=77)	3.9	10.4	61.0	15.6	9.1	0.0	0.0	0.0
都井地区(n=42)	2.4	11.9	54.8	18.0	9.5	0.0	0.0	2.4
市本地区(n=33)	0.0	0.0	72.7	15.2	12.1	0.0	0.0	0.0

問7 あなたの現在の健康状態を教えてください。(いずれか1つに○)

現在の健康状態についてみると、「健康」が46.3%と最も高く、次いで「持病や障がいがあるが、日常生活に問題はない」が38.4%、「体が弱く、病気がち」が5.6%となっています。前回と比較すると、「健康」が18.9ポイント減少しています。

地区別に見ると、(本城地区)(都井地区)では「持病や障がいがあるが、日常生活に問題はない」、その他の区分では「健康」が最も高くなっています。

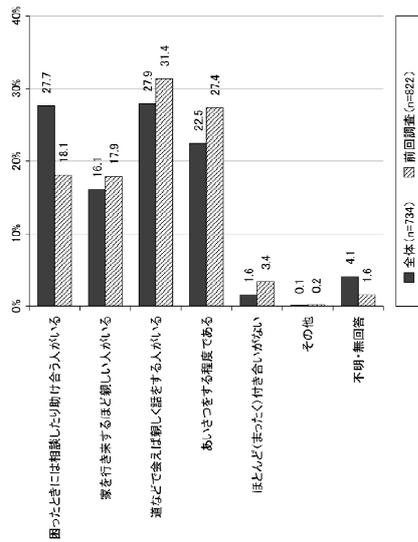


2 「地域」との関わりについて

問8 あなたやご家族は、近所の人との程度の交流がありますか。(いずれか1つに○)

近所の人との交流の程度についてみると、「道などで会えば親しく話をする人がいる」が27.9%と最も高く、次いで「困ったときには相談したり助け合う人がいる」が27.7%、「あいさつをする程度である」が22.5%となっています。

前回と比較すると、「困ったときには相談したり助け合う人がいる」が9.6ポイント増加しています。地区別にみると、〔大東地区〕〔都井地区〕では「困ったときには相談したり助け合う人がいる」、〔市木地区〕では「困ったときには相談したり助け合う人がいる」「道などで会えば親しく話をする人がいる」、その他の区分では「道などで会えば親しく話をする人がいる」が最も高くなっています。



<地区別>

	た 困 り つ た 助 け と 会 う 人 が 相 談 し た り 助 け 合 う 人 が い る	し 家 を ま わ り ま わ る 人 が い る 程 度 で あ る	道 で あ い さ つ を す る 程 度 で あ る	あ い さ つ を す る 程 度 で あ る	付 き 合 い が な い た り な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
福島地区(n=377)	26.8	13.3	28.7	27.9	1.9	0.3	0.3
北方地区(n=74)	29.7	17.6	32.4	18.2	4.1	0.0	0.0
大東地区(n=100)	30.0	28.0	26.0	15.0	0.0	0.0	0.0
本城地区(n=77)	28.0	18.2	28.6	27.3	0.0	0.0	0.0
都井地区(n=42)	45.2	21.4	23.8	7.1	0.0	0.0	2.4
市木地区(n=33)	33.3	12.1	33.3	15.2	6.1	0.0	0.0

9

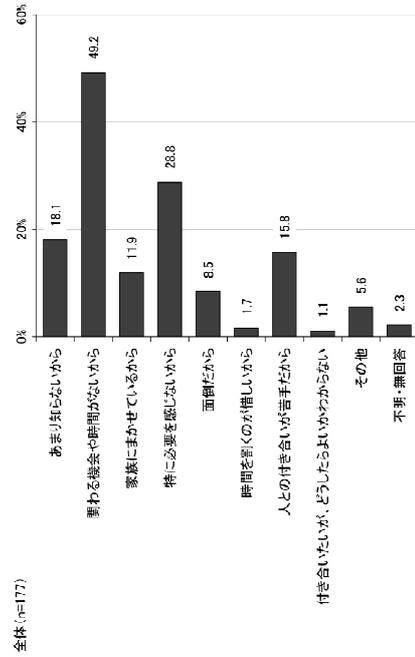
年齢別にみると、〔60～79歳〕では「道などで会えば親しく話をする人がいる」、〔80歳以上〕では「困ったときには相談したり助け合う人がいる」、その他の区分では「あいさつをする程度である」が最も高くなっています。

<年齢別>

	た 困 り つ た 助 け と 会 う 人 が 相 談 し た り 助 け 合 う 人 が い る	し 家 を ま わ り ま わ る 人 が い る 程 度 で あ る	道 で あ い さ つ を す る 程 度 で あ る	あ い さ つ を す る 程 度 で あ る	付 き 合 い が な い た り な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
16～29歳(n=26)	15.4	3.3	26.9	34.6	15.4	0.0	3.8
30～39歳(n=32)	18.8	9.4	25.0	43.8	3.1	0.0	0.0
40～49歳(n=87)	19.4	10.4	22.4	46.3	1.5	0.0	0.0
50～59歳(n=60)	16.7	13.3	30.0	38.3	1.7	0.0	0.0
60～69歳(n=179)	31.8	13.5	32.9	21.2	0.8	0.0	0.0
70～79歳(n=193)	28.6	21.6	30.2	17.6	1.5	0.0	0.5
80歳以上(n=149)	38.9	21.5	27.5	11.4	0.0	0.7	0.0

問8で「あいさつをする程度である」「ほとんど(まったく)付き合いがない」と回答した方
 問8-1 付き合いがほとんどない理由についてみると、「関わる機会や時間がないから」が49.2%と最も高く、次いで「特に必要を感じないから」が28.8%、「あまり知らないから」が18.1%となっています。

【特に必要を感じないから】(東京都)では「関わる機会や時間がないから」「特に必要を感じないから」が最も高く
 なっています。



<地区別>

	あまり知らないから	関わる機会や時間がないから	家族にまかせているから	特に必要を感じないから	面倒だから	時間を削くのが惜しいから	人との付き合いが苦手だから	付き合いが、どうしたらよいかからない	その他	不明・無回答
福島地区 (n=112)	18.8	55.3	9.8	30.4	8.0	2.7	16.1	0.9	5.4	0.9
北方地区 (n=15)	33.3	33.3	6.7	40.0	6.7	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0
大東地区 (n=16)	12.5	31.3	25.0	31.3	12.5	0.0	18.8	0.0	6.3	0.0
本城地区 (n=21)	9.5	47.6	14.3	19.0	9.5	0.0	19.0	0.0	0.0	4.8
新井地区 (n=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
市本地区 (n=7)	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3

年齢別にみると、「16～29歳」では「関わる機会や時間がないから」「特に必要を感じないから」、「70歳以上」では「特に必要を感じないから」、その他の区分では「関わる機会や時間がないから」が最も高くなっています。

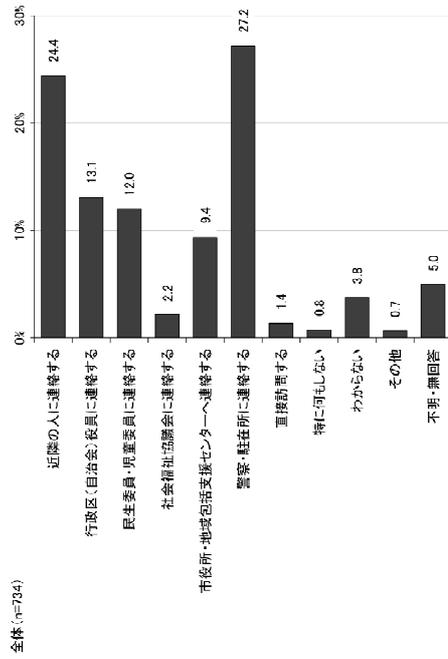
<年齢別>

	あまり知らないから	関わる機会や時間がないから	家族にまかせているから	特に必要を感じないから	面倒だから	時間を削くのが惜しいから	人との付き合いが苦手だから	付き合いが、どうしたらよいかからない	その他	不明・無回答
16～29歳 (n=13)	23.1	38.5	30.8	38.5	15.4	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
30～39歳 (n=15)	33.3	60.0	6.7	20.0	20.0	6.7	20.0	6.7	6.7	0.0
40～49歳 (n=32)	31.3	56.3	12.5	21.9	9.4	0.0	25.0	0.0	3.1	0.0
50～59歳 (n=24)	16.7	50.0	4.2	25.0	4.2	4.2	20.8	4.2	4.2	0.0
60～69歳 (n=37)	16.2	78.7	10.8	21.6	5.4	0.0	13.5	0.0	0.0	2.7
70～79歳 (n=38)	5.3	31.6	13.2	34.2	5.3	2.6	7.9	0.0	13.2	5.3
80歳以上 (n=17)	5.9	11.8	11.8	47.1	11.8	0.0	17.6	0.0	11.8	5.9

問9 もし、あなたの周辺で孤独死や虐待などが起きるおそれがある状況を知ったら、最初どのような対応しますか。(いずれか1つに○)

自身の周囲で孤独死や虐待などが起きるおそれがある状況を知った場合の最初の対応についてみると、「警察・駐在所に連絡する」が27.2%と最も高く、次いで「近隣の人に連絡する」が24.4%、「行政区(自治会)役員に連絡する」が13.1%となっています。

地区別に見ると、(大東地区)(都井地区)では「近隣の人に連絡する」、(本城地区)では「近隣の人に連絡する」「警察・駐在所に連絡する」、その他の区分では「警察・駐在所に連絡する」が最も高くなっています。



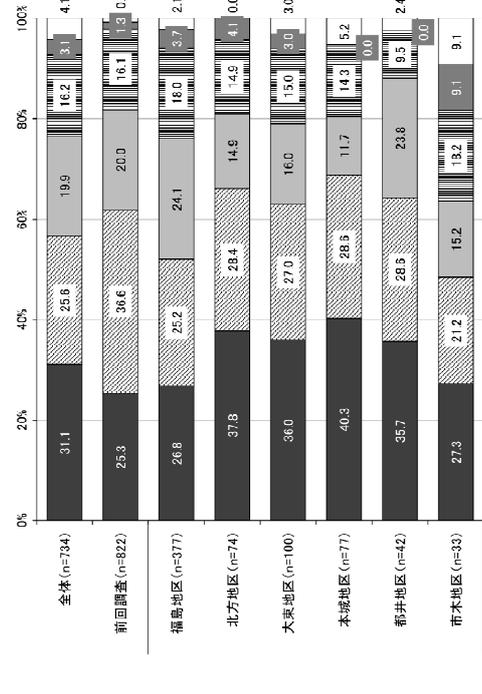
<地区別>

	近隣の人に連絡する	行政区(自治会)役員に連絡する	民生委員・児童委員に連絡する	社会福祉協議会に連絡する	市役所・地域包括支援センターへ連絡する	警察・駐在所に連絡する	直接訪問する	特に関心しない	わからない	その他	不明・無回答
福島地区(n=377)	20.7	14.6	11.7	1.6	13.8	28.9	1.1	1.6	4.2	0.3	1.6
北方地区(n=74)	28.4	13.5	9.5	0.0	9.5	31.1	1.4	0.0	5.4	1.4	0.0
大東地区(n=100)	34.0	12.0	18.0	3.0	3.0	24.0	2.0	0.0	3.0	3.0	0.0
本城地区(n=77)	32.5	15.6	5.2	2.6	5.2	32.5	1.3	0.0	3.9	0.0	1.3
都井地区(n=42)	28.6	11.8	23.8	7.1	0.0	21.4	0.0	0.0	2.4	0.0	4.8
市木地区(n=33)	24.2	6.1	21.2	6.1	6.1	27.3	6.1	0.0	3.0	0.0	0.0

問10 あなたの生活のなかで困ったとき、近所の人に支えてほしいと思いますか。(いずれか1つに○)

生活のなかで困ったとき、近所の人に支えてほしいと思うかについてみると、「困ったときには、近所の人に支えてほしいと思う(現在支えてもらっている場合も含む)」が31.1%と最も高く、次いで「支えてほしいが、難しいと思う」が25.6%、「近所の人に支えてほしいとは思わないが19.9%となっています。

前回と比較すると、「支えてほしいが、難しいと思う」が11.0ポイント減少しています。地区別に見ると、すべての区分で「困ったときには、近所の人に支えてほしいと思う(現在支えてもらっている場合も含む)」が最も高くなっています。



■ 困ったときには、近所の人に支えてほしいと思う(現在支えてもらっている場合も含む)
 ▨ 支えてほしいが、難しいと思う
 □ 近所の人に支えてほしいとは思わない
 ■ わからない
 ■ その他
 □ 不明・無回答

※前回調査: 「困ったときには、近所の人に支えてほしいと思う」

年齢別にみると、〔30～49歳〕では「近所の人」に支えてほしいとは思わない」、〔50～69歳〕では「支えてほしいが、難しいと思う」、その他の区分では「困ったときには、近所の人に支えてほしいと思う（現在支えてもらっている場合も含む）」が最も高くなっています。

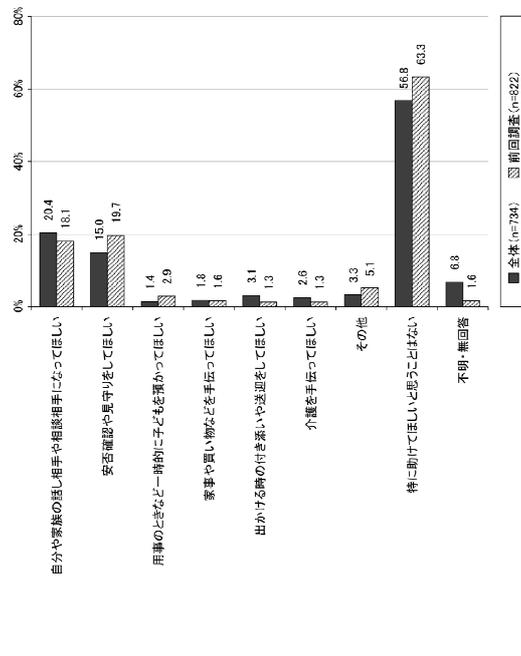
<年齢別>

	もえ困らつてほしいとき、場合によっては、近所の人や近所の人を頼りたいと思う	支えてほしいが、難しいと思う	わかない	その他	不明・無回答
16～29歳 (n=26)	34.6	7.7	23.1	3.8	7.7
30～39歳 (n=32)	21.9	18.8	31.3	0.0	3.1
40～49歳 (n=67)	22.4	22.4	26.9	1.5	1.5
50～59歳 (n=60)	20.0	33.3	20.0	5.0	1.7
60～69歳 (n=170)	25.9	27.6	22.9	17.6	3.5
70～79歳 (n=199)	37.2	25.6	18.6	1.2	3.5
80歳以上 (n=149)	38.9	23.9	14.1	3.4	2.7

問11 あなたは日常生活において、近所の人に助けてほしいと思うことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

日常生活において、近所の人に助けてほしいと思うことについてみると、「特に助けてほしいと思うことほない」が56.8%と最も高く、次いで「自分や家族の話し相手や相談相手になってほしい」が20.4%、「安否確認や見守りしてほしい」が15.0%となっています。

前回と比較すると、「特に助けてほしいと思うことほない」が6.5ポイント減少しています。地区別にみると、すべての区分で「特に助けてほしいと思うことほない」が最も高くなっています。



<地区別>

	自分や家族の話し相手や相談相手になってほしい	安否確認や見守りしてほしい	用事のおきなど一時的に子どもを預かってほしい	家事や買い物などを手伝ってほしい	出かける時の付き添いや送迎してほしい	介護を手伝ってほしい	その他	特に助けてほしいと思うことほない	不明・無回答
福島地区 (n=377)	18.8	14.6	0.6	1.3	1.9	3.2	61.8	5.0	
北方地区 (n=74)	25.7	18.9	1.4	1.4	1.4	1.4	6.8	54.1	
大東地区 (n=100)	18.0	10.0	0.0	2.0	5.0	1.0	3.0	61.0	
本郷地区 (n=77)	19.5	18.2	2.6	2.6	5.2	3.9	2.6	53.2	
番井地区 (n=42)	31.0	14.3	0.0	4.8	7.1	2.4	0.0	42.9	
市本郷地区 (n=33)	27.3	18.2	3.0	0.0	3.0	0.0	3.0	45.5	